

「ダビデの子」という表現

ベン・ダーヴィド(בֶּן־דָּוִד)

マタイ福音書	「ダビデの子」と呼んだ者	内 容
9:27	二人の盲人	「ダビデの子よ」と叫びながらイエスについて来た。
12:23	群衆	イエスが悪霊につかれた人、盲人、口もきけない人をいやすのを見た群衆は、「この人はダビデの子なのだろうか」と言った。
15:22	カナンの女	自分の娘のためにイエスのもとに来て、「主よ。ダビデの子よ」と言って、いやしを願った。
20:30	二人の盲人	「主よ。私たちをあわれんでください。ダビデの子よ。」と叫んだ。
21:9	群衆	ろばの子に乗ってエルサレムに入場されるイエスに対して、「ダビデの子にホサナ。」と叫んだ。
21:15	子どもたち	宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と言って叫んだ。
22:42	パリサイ人	「キリストはだれの子か」というイエスの質問に対して、パリサイ人たちは「ダビデの子です」と答えた。

- 「ダビデの子」は王なるメシア(キリスト)の称号です。共観福音書では、マタイの福音書がマルコとルカにあるすべてを包含しています。イエスご自身はこの称号を用いることはありませんでしたが、盲人たちが二箇所においてこの称号を用いて叫んでいるところに特徴があります。
- 「ダビデの子」がメシアを指すようになったのは、神がダビデに、ダビデの子孫が永遠の王国を確立すると約束したことにあります。これが「ダビデ契約」と言われるものです。

【新改訳改訂第3版】Ⅱサムエル7章 11・・・【主】はあなたに告げる。『【主】はあなたのために一つの家を造る。』

12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。 13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。14 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。もし彼が罪を犯すときは、わたしは人の杖、人の子

のむちをもって彼を懲らしめる。15 しかし、わたしは、あなたの前からサウルを取り除いて、わたしの恵みをサウルから取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。16 あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」

●このように、神がダビデと結ばれた契約は「王国」(ヘブル語「マルフト」(מְלוּכָה)、ギリシャ語「バシレイア」(βασιλεία)、英語「キングダム」(kingdom)に関する約束でした。それはダビデとその子孫に永久に与えられたものでした。この王国が完全な形で地上に実現するのは、キリストの再臨後の千年王国時代におい
です。しかしその「王国」の訪れがイエスの初臨と共に始まったのです。このことが「天の御国が近づいた」という表現です。「天」とは「神」の別称です。つまり「神の国、神の統治、神の王国」がイエスの到来とともにすでに始まったことを意味しているのです。しかし、その完成は千年王国においてです。主の祈りの中にある「御国が来ますように」との祈りは、まさに、神の王国の完全な到来を願う祈りなのです。